

平成27年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別火災件数	4
8	住宅用火災警報器の奏功事例	5, 6
第2	救急の概況	7
1	救急出場件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災

第1 火災の概況

松山市における平成27年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数66件、損害額1億1,165万2千円、死者3人、負傷者10人となっています。

1 火災件数

平成27年上半期（1月～6月）における出火件数は66件で、前年同期（93件）と比べて27件減少しています。

これは、おおよそ2.7日に1件の火災が発生したこととなります。

（▲は減少）

		平成27年	平成26年	前年同期比
総火災件数		66	93	▲ 27
種別	建物火災 (住宅火災)	43 (28)	62 (39)	▲ 19 ▲ (11)
	車両火災	3	5	▲ 2
	林野火災	2	4	▲ 2
	船舶火災	1	0	1
	航空機火災	0	0	0
	その他火災	17	22	▲ 5

※その他火災とは、空地、田畑、河川敷、ゴミ集積場等の火災をいいます。

2 火災による損害

平成27年上半期（1月～6月）における火災による損害額は1億1,165万2千円で、その損害状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

	平成27年	平成26年	前年同期比
焼損棟数	76	102	▲ 26
り災世帯数	50	81	▲ 31
建物焼損床面積 (㎡)	2,629	1,955	674
建物焼損表面積 (㎡)	205	334	▲ 129
林野焼損面積 (a)	22	123	▲ 101
損害額 (千円)	111,652	111,814	▲ 162

3 死傷者数

平成27年上半期（1月～6月）における火災による死者は3人で、前年同期（7人）と比べて4人減少しています。また、火災による負傷者は10人で、前年同期（35人）と比べて25人減少しています。

（▲は減少）

	平成27年	平成26年	前年同期比
死者	3	7	▲ 4
負傷者	10	35	▲ 25

4 出火原因別の火災発生状況

平成27年上半年(1月～6月)における火災66件を出火原因別にみますと、「こんろ」が13件(19.7%)、「たき火」が11件(16.7%)、「たばこ」が8件(12.1%)の順となっています。

また、「放火火災」は10件で全体の15.2%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

(▲は減少)

	平成27年	平成26年	前年同期比
こ ん ろ	13	12	1
た き 火	11	13	▲ 2
た ば こ	8	14	▲ 6
放 火 の 疑 い	5	6	▲ 1
放 火	5	5	0
マ ッ チ ・ ラ イ タ ー	2	5	▲ 3
配 線 器 具	1	4	▲ 3
ス ト ー ブ	1	4	▲ 3
排 気 管	1	2	▲ 1
火 あ そ び	1	2	▲ 1
灯 火	1	2	▲ 1
取 灰	1	2	▲ 1
電 気 機 器	1	1	0
電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線	1	1	0
溶 接 機 ・ 切 断 機	1	1	0
煙 突 ・ 煙 道	1	0	1
焼 却 炉	1	0	1
風 呂 か ま ど	0	1	▲ 1
ボ イ ラ ー	0	1	▲ 1
内 燃 機 関	0	1	▲ 1
そ の 他	5	10	▲ 5
不 明 ・ 調 査 中	6	6	0
合 計	66	93	▲ 27

5 損害額

平成27年上半期（1月～6月）における火災による損害額は1億1,165万2千円で、前年同期（1億1,181万4千円）と比べて16万2千円減少しています。

（▲は減少）

	平成27年 (千円)	平成26年 (千円)	前年同期比 (千円)
損害額	111,652	111,814	▲ 162
建物	109,048	91,940	17,108
船舶	800	0	800
車両	45	16,561	▲ 16,516
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	1,759	161	1,598
爆発	0	3,152	▲ 3,152

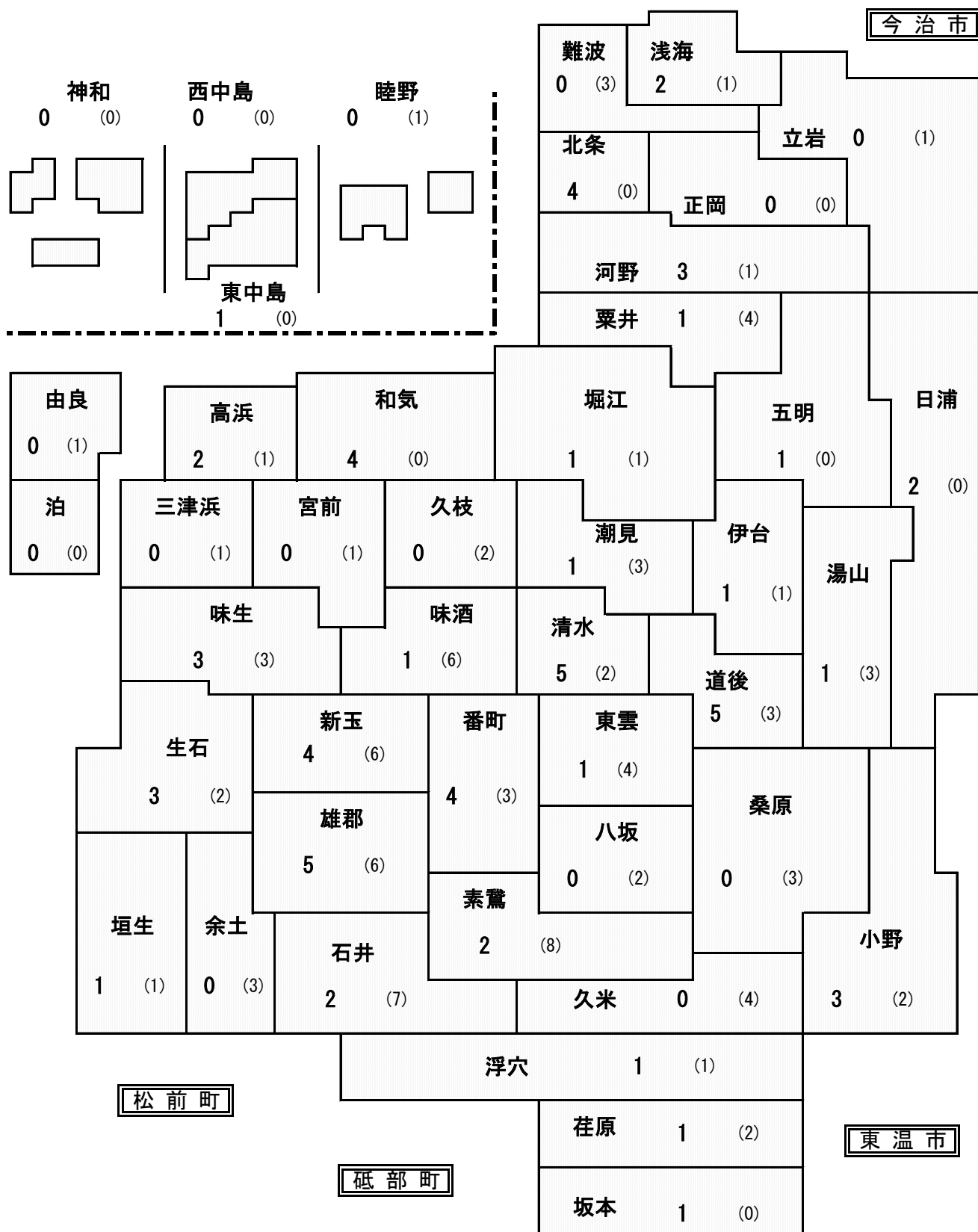
6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）における火災状況は次表のとおりです。

	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平均
火災件数 (件)	66	93	80	64	92	79.0
焼損棟数 (棟)	76	102	67	58	68	74.2
死者 (人)	3	7	7	4	2	4.6
負傷者 (人)	10	35	21	9	13	17.6
り災世帯数 (世帯)	50	81	45	39	46	52.2
り災人員 (人)	115	182	92	92	110	118.2
損害額 (千円)	111,652	111,814	84,246	43,311	83,050	86,815

7 地区別火災件数

() 内は前年同期の火災件数



8 住宅用火災警報器の奏功事例

松山市では、これまで住宅用火災警報器を設置していたおかげで、大事には至らなかった事例が29件報告されています。(平成27年6月末日現在)

松山市で実際に起きた、ついつかりの危険な具体例をご紹介しますので、住宅用火災警報器をまだ取り付けていないご家庭は、一日も早く取り付けるようにしましょう。

【事例1】 一般住宅（2階建て）

早朝、台所で鍋をコンロにかけて火をつけ、これを忘れて2階に上がり、寝室で寝ていたところ、隣人が住宅用火災警報器の警報音と換気扇からの煙に気付き、火災を発見しました。

当事者は、隣人がドアを叩く音で目覚め、1階に駆けつけると、鍋から1m程度の炎が立ち上がっていたが、水道の水をかけ消火に成功しました。

この住宅には、1・2階に住宅用火災警報器が設置されていました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、居住者に限らず、近隣の方が気付くこともあります。

【事例2】 共同住宅（アパート・マンション）

深夜未明、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、火災に気付き消火器で初期消火を試みたが消火できず、避難しました。

また、階下の住人も警報音で上階の火災を発見し、119番通報を行いました。

※ 就寝中の火災は、気付くのに時間がかかります。住宅用火災警報器によって、早期の避難が可能になります。

【事例3】 一般住宅（2階建て）

2階の寝室にいたところ、2階階段室に設置している住宅用火災警報器の警報音に気付き、部屋の外に出ると煙が充満しており、1階に下りたところで火災を発見しました。

また、家族も警報音で火災に気付き、消火活動を行いました。消火困難と判断し、家族全員避難しました。

※ 2階にも寝室がある場合、煙の通り道となる階段室にも取り付ける必要があります。

【事例4】 一般住宅（2階建て）

台所のグリルで魚を焼いていることを忘れ、隣の部屋でテレビを見ていたところ、「火事です・火事です」という音声が鳴っているのに気付き、台所に戻ると煙が充満しており、急いでグリルのスイッチを切り消火しました。

また、近所の人も2階から出ている煙を発見し、玄関に行くと警報音が鳴っていたので、住人を呼び出すとともに、消防に通報しました。

※ 119番通報が早期にでき、消防隊も早く駆けつけることができます。

【事例5】 共同住宅（アパート・マンション）

深夜、居住者が寝たばこをしながら寝付いてしまい、布団に引火しました。同じアパートに住む住人が、出火室からの住宅用火災警報器の警報音と煙に気付き、出火室へ向かい、燃えていた布団を屋外に引き出し、水道水で消火に成功しました。

※ 早期の発見による初期消火は、被害の軽減に繋がります。

【事例6】 共同住宅（アパート・マンション）

昼間、調理中であることを忘れ、鍋をコンロにかけたまま寝込んでしまい、鍋が空焚き状態になり、発生した煙で警報器が作動し、近所の住人が警報音に気付いて共同住宅の管理会社に通報しました。管理会社から119番通報があり、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

※ 住宅用火災警報器の設置により、火災を未然に防ぐことができます。

【事例7】 併用住宅（1階物品販売店舗・2階住宅）

深夜、1階販売店の従業員が鍋をコンロにかけたまま帰宅し、鍋が空焚き状態になりました。2階に通じる屋内階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に、2階に居住する大家さんが気付き119番通報し、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。

この建物には、店舗内・屋内階段にも警報器を設置していました。

※ 住宅以外の用途にも住宅用火災警報器は有効です。

【事例8】 一般住宅（2階建て）

1階の居室にいたところ、2階で住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため、上がってみるとクローゼット内部から炎が上がっていました。

この家では住宅用火災警報器を2階の各部屋と階段上部に設置しており、連動して鳴るものであったため早期に火災を発見できました。

※ 連動式の住宅用火災警報器は、別の部屋にいても火災を早期に発見できます。

【事例9】 共同住宅（アパート・マンション）

夕食後、やかんをコンロにかけたままリビングで寝込んでしまい、やかんが空焚き状態になり、炎と煙が発生したことで警報器が感知し、火災に気付き、共同住宅に備え付けの消火器で消火に成功しました。

※ 住宅用火災警報器の警報音は、就寝中でも火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く実施することができ、被害の軽減に役立ちますが、火災を防ぐことや、消火できるものではありません。

日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html>

救 急

第2 救急の概況

松山市における平成27年上半期（1～6月）の救急出場件数は11,913件、搬送人員は11,109人で、前年と比較し出場件数・搬送人員ともに減少しています。

これは、一日平均65.8件、21分53秒に1回の割合で救急車が出場し、市民46人に1人の割合で搬送されたこととなります。

1 救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・交通事故の順となっており、この3種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の87%を占めています。

(▲は減少)

区分	単位	平成27年	構成比(%)	平成26年	構成比(%)	増減
出場件数	件	11,913	100.0	12,070	100.0	▲ 157
内訳	火災	44	0.4	78	0.7	▲ 34
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	13	0.1	5	0.0	8
	交通	1,345	11.3	1,441	11.9	▲ 96
	労災	57	0.5	69	0.5	▲ 12
	運動	76	0.6	78	0.7	▲ 2
	一般	1,540	12.9	1,551	12.9	▲ 11
	加害	51	0.5	70	0.6	▲ 19
	自損	148	1.2	150	1.2	▲ 2
	急病	7,476	62.8	7,393	61.3	83
	転院	1,124	9.4	1,184	9.8	▲ 60
	その他	39	0.3	51	0.4	▲ 12
搬送件数	件	10,987	-	11,023	-	▲ 36
搬送人員	人	11,109	100.0	11,156	100.0	▲ 47
内訳	火災	9	0.1	24	0.2	▲ 15
	自然	0	0.0	0	0.0	0
	水難	7	0.0	0	0.0	7
	交通	1,319	11.9	1,428	12.8	▲ 109
	労災	56	0.5	65	0.6	▲ 9
	運動	80	0.7	82	0.7	▲ 2
	一般	1,464	13.2	1,442	12.9	22
	加害	44	0.4	63	0.6	▲ 19
	自損	111	1.0	123	1.1	▲ 12
	急病	6,909	62.2	6,785	60.8	124
	転院	1,108	10.0	1,139	10.2	▲ 31
	その他	2	0.0	5	0.1	▲ 3
出場平均(1日)	件	65.8		66.7		
出場間隔		21分53秒		21分35秒		

※1 出場平均については、前年比1日あたり0.9件減少しています。

※2 出場間隔については、前年比18秒長くなっています。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関10,047人(90.4%)、その他の医療機関1,060人(9.6%)、その他の場所2人となっており、救急医療機関への搬送が過半数を占めています。

告示の別等 \ 事故種別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,353	1,256	1,398	1,040	10,047
その他の医療機関	556	63	66	375	1,060
その他の場所	0	0	0	2	2
合計	6,909	1,319	1,464	1,417	11,109

※救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡165人(1.5%)、重症951人(8.6%)、中等症3,392人(30.5%)、軽症6,600人(59.4%)、その他1人(0.0%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般加害	自損	急病	その他	合計	
死亡	0	0	3	4	2	0	10	0	18	121	7	165
重症	2	0	1	44	6	0	102	0	8	481	307	951
中等症	2	0	1	156	21	22	384	5	28	2,031	742	3,392
軽症	5	0	2	1,114	27	58	968	39	57	4,276	54	6,600
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	9	0	7	1,319	56	80	1,464	44	111	6,909	1,110	11,109

(傷病程度)

- 死亡 初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したものの

4 応急処置実施状況

救急隊員が行える救命処置（ラリングアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与）の件数は207件（前年264件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人員	6,843	1,281	1,422	1,401	10,947
	止血	28	35	120	32	215
	固定	28	250	147	57	482
	人工呼吸	26	2	3	5	36
	心マッサージ	13	2	1	0	16
Ⅱ	うち自動	6	0	1	0	7
	心肺蘇生	215	8	24	35	282
Ⅱ	うち自動	26	0	1	2	29
	酸素吸入	1,123	36	62	432	1,653
	気道確保	287	15	37	46	385
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	9	0	0	2	11
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	8	0	5	0	13
救	うちラリングアルマスク等	74	1	6	3	84
救	気管挿管	9	0	7	2	18
	保温	332	37	65	65	499
	被覆	39	351	392	77	859
Ⅱ	在宅療法継続	16	0	3	1	20
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	19	1	0	1	21
救	静脈路確保	48	3	6	5	62
救	薬剤投与	20	1	1	0	22
Ⅱ	血圧測定	6,380	1,227	1,312	1,291	10,210
Ⅱ	聴診器	868	89	98	123	1,178
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,605	1,254	1,365	1,351	10,575
Ⅱ	心電図	1,555	29	66	228	1,878
	その他	5,116	454	656	785	7,011
合計		22,718	3,794	4,358	4,534	35,404
拡大された応急処置等 (うち救命処置)		15,643 170	2,605 6	2,871 20	3,009 11	24,128 207

(注)

「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

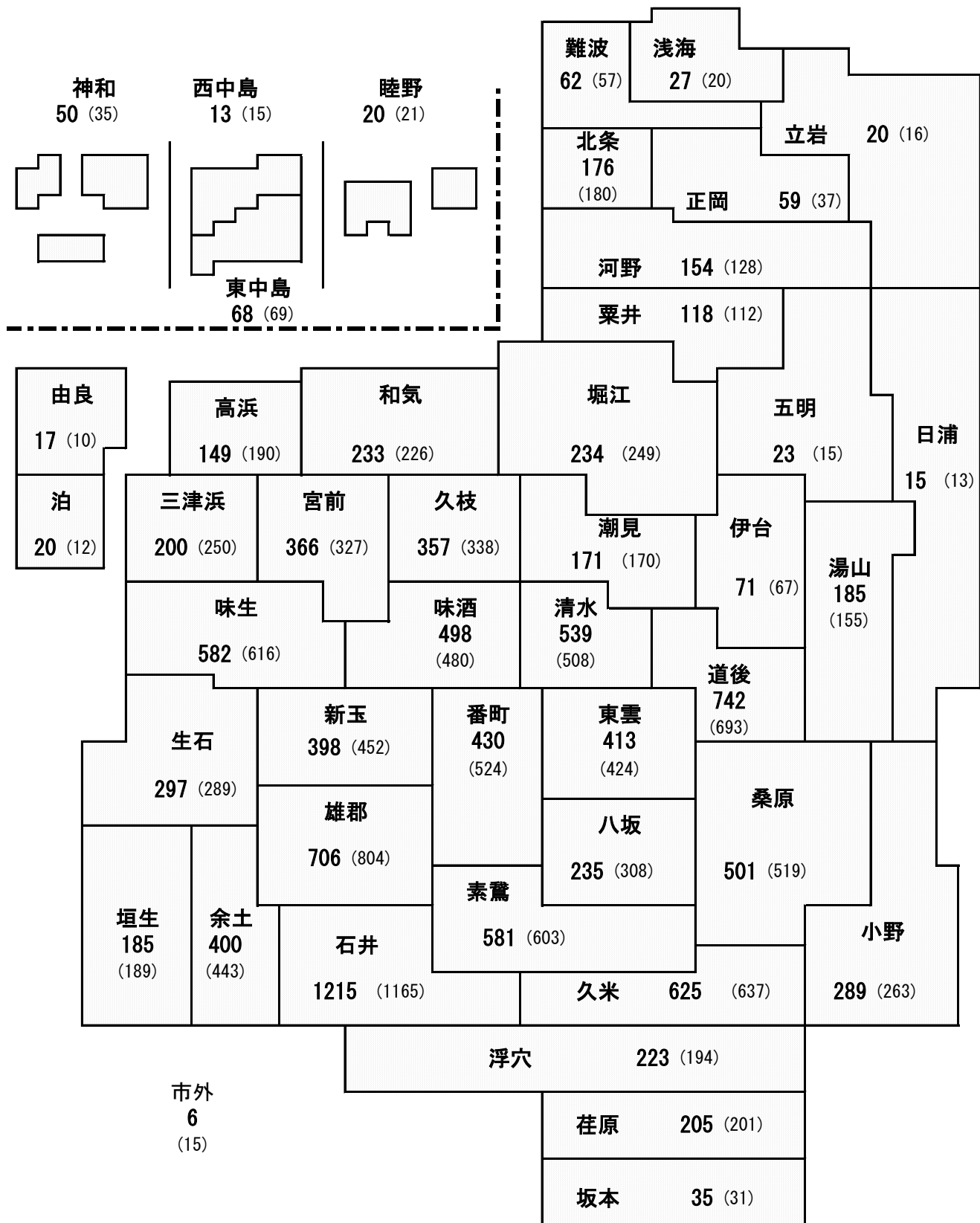
「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置

} 拡大された応急処置等

5 地区別救急発生状況

出場件数 11,913件 (前年 12,070件)

() 内は前年同期の発生状況



平成27年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成27年上半年期火災救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。
<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html>